

広報

こしひがや

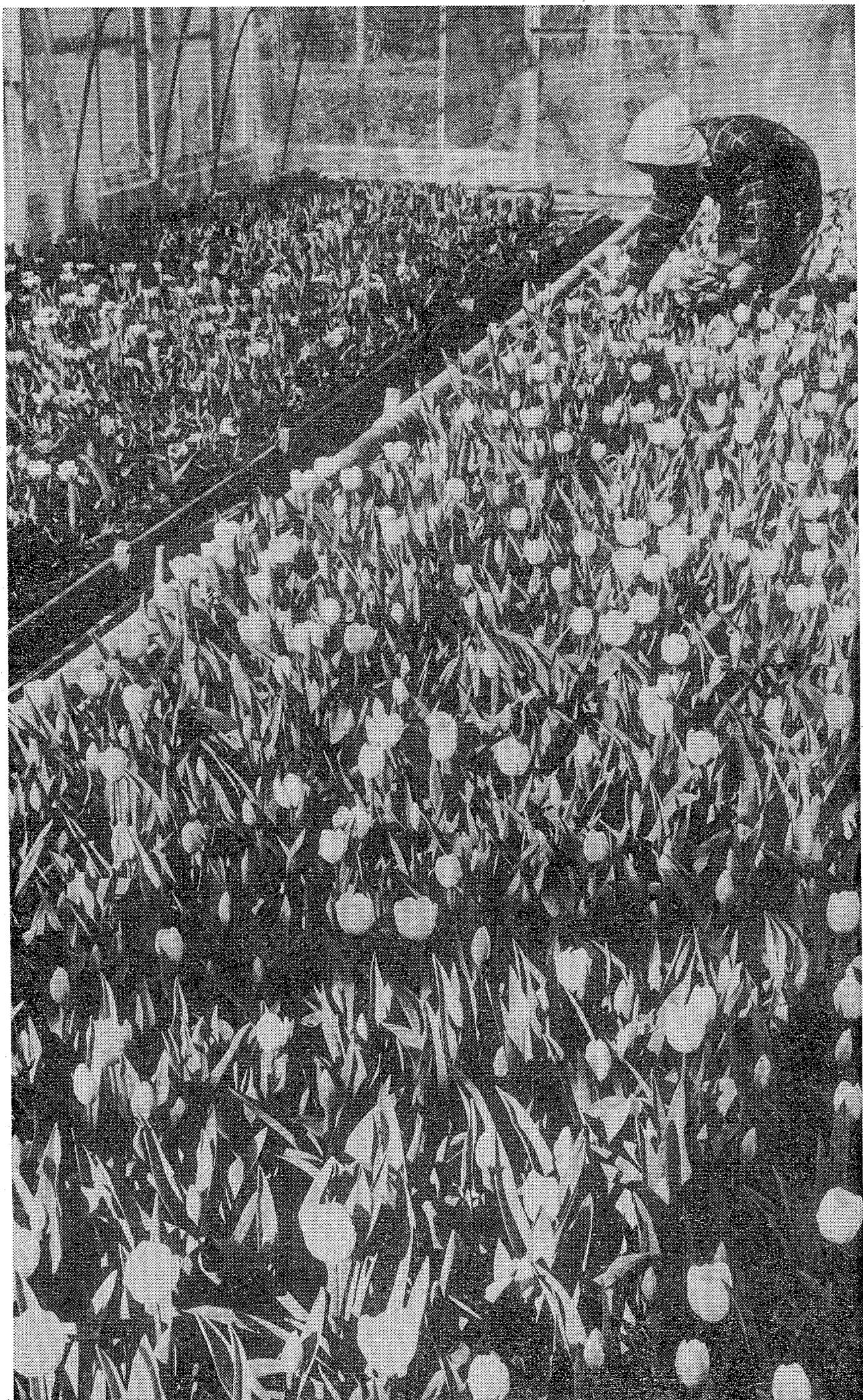
1月15日

昭和52年(1977) No.537

編集

越谷市役所企画部広報課

昭和32年8月5日第3種郵便物認可
毎月2回(1日・15日発行)



猪突猛進

(63)

きょうは成人の日です。越谷市からも三三四〇名の青年男女が成人式を迎えて大への仲間入りをします。

私の成人の日は、昭和三十一年、前年に定期制高校を卒業して農業に従事

コッペパン2個の成人式

市長 黒田重晴

門の上に、もったいなく並べられたコッペパンを並べて帰って行きました。

そんな成人式を迎えてから三年、そ

して帰って行きました。

その後越谷市の成人式は、激動の

時代

の世の中を、成人になった若者たちがどう受け止め、考えているのか、私に

は正直言つてわかりません。

ただ私は成人式のあいさつには、か

ならずこんなことを話します。

「社会や自分のまわりに不満があ

り、悪いと思うものがあったら、自

分でそれを改めなさい。もし力が足

り、悪く思っているものがあったら、自

分でそれを改めなさい」と。

現代の若者は「しのげの世代」だと

いわれますが、そんな若者は、私た

ち大人がしらけてしまいます。

色あざやかな赤や白く大きな「アルビノ」、ピンクでかわいらしい「メリーウィンド」など

色とりどりのチューリップにハウス内は春のよう

ハウス内は春のよう

農家のチューリップ栽培

色あざやかな赤や白く大きな「アルビノ」、ピンクでかわいらしい「メリーウィンド」など

色とりどりのチューリップにハウス内は春のよう



越谷市人口
(昭和52年1月1日現在)

総人口 20万1930人 前月比 506人増

男 10万1910人 249人増

女 10万0020人 257人増

世帯数 5万7910世帯 133世帯増



12月定期市議会が開かれました

消防署間久里分署の設置など19議案を可決



土地区画整理事業として、農産物の輸送

教育委員会委員に

飯島栄氏が再任
教育委員会委員飯島栄氏が、昭和五
十一年十二月二十五日をもって任期満
了となり、その後任に再び飯島栄氏が任
命されました。

飯島 栄氏(六十二歳)

住所 越谷市東町二丁目三四〇番地

農道五〇九〇メートル

砂原 千足

大杉 出羽

南荻島 千足

船渡 七五〇メートル

九六〇メートル

九八〇メートル

九八〇メートル

九九〇メートル

九



(200)

鳥文斎栄之と中村彦左衛門

島居清長・喜多川歌麿と共に、天明
・寛政期(一七八一～一八〇〇)の三
大浮世絵師と称される鳥文斎栄之は、
瓦賀根村の名主中村彦左衛門家に遊ん
だが、瓦賀根溜井の骨壺に感銘を受け
て画筆をとった。それが「瓦賀根溜井」

の作品には独自の張りと芸品があり、
市史編纂員 木村信次

「新編武蔵風土記稿」によれば、こ
の溜井は荒川の流れを左右に穿ちひ
らけ、幅約八〇間、長さ約六〇間
で、その中に水の音をする堰が設け
られており、用水季節にはあたかも湖
沼の鏡を享した。
明治期に越ヶ谷町の漢詩人山本梅塘
が、近江八景になぞらえて越ヶ谷八景
(瓦賀根の帰帆、水神の落雁、東福寺
の秋、久伊豆の暮雪、柳原の夜雨、
大相撲の晴嵐、寺橋の夕照、天籟寺の
晩鐘)を見立てたが、なかでも瓦賀根
の帰帆は實例で記されている。

この瓦賀根溜井を描いた栄之は、も
と狩野派の院垣傳について画技を学び
後に浮世絵師に転向したが、清長の系
統に屬したといわれる。栄之は、江戸
幕府勘定奉行細田丹波守の子孫時行の
長男として宝曆六年(一七五〇)の生
まれ、一〇代将軍家治に仕え、御納戸
役を勤めた旗本出身の浮世絵師として
はきわめて稀な例であり、このためそ
の作品には独自の張りと芸品があり、
市史編纂員 木村信次

